

ApeosWare Flow Service ソフトとの連携ソフトシリーズ

**RS2BAR/RS3BAR
for
ApeosWare Flow Service**

製品紹介

ApeosWare Flow Service 対応プラグイン
バーコード自動認識ソフトウェア

カーネルコンピュータシステム株式会社
<https://www.kernelcomputer.co.jp/>

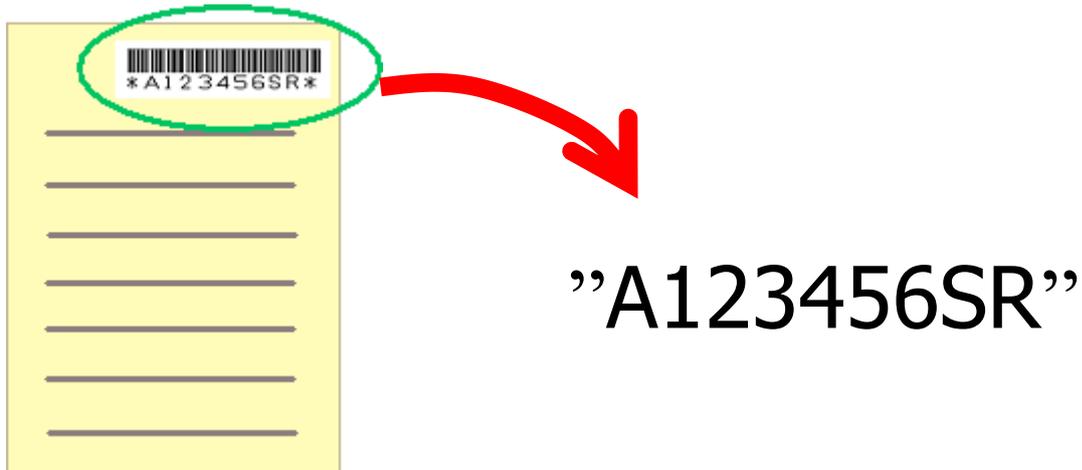
1. RS3BAR (RS2BAR) for ApeosWare Flow Service について

[処理の概要]

バーコード (QR コード, CODE39, UCC/EAN128 など) のイメージを含むイメージデータ (TIFF, JPEG など) に対してバーコード情報の読み取りを行い, 読み取った情報を利用して様々な付加価値を与え XDW, PDF/PostScript, TIFF, CSV データに変換して出力を行います。

[バーコードの読み取りとは]

バーコードの読み取りとは、イメージ画像の中からバーコード部分を自動的に探しだし、バーコード情報を読み取る処理です。OCR 機能と似ていますが OCR 機能と比較して誤認識率が非常に低いことが特徴で、可読できるバーコードのイメージを貼り付けることができればどのようなイメージデータからでも精度の高い情報取得が行えます。



[認識可能バーコード]

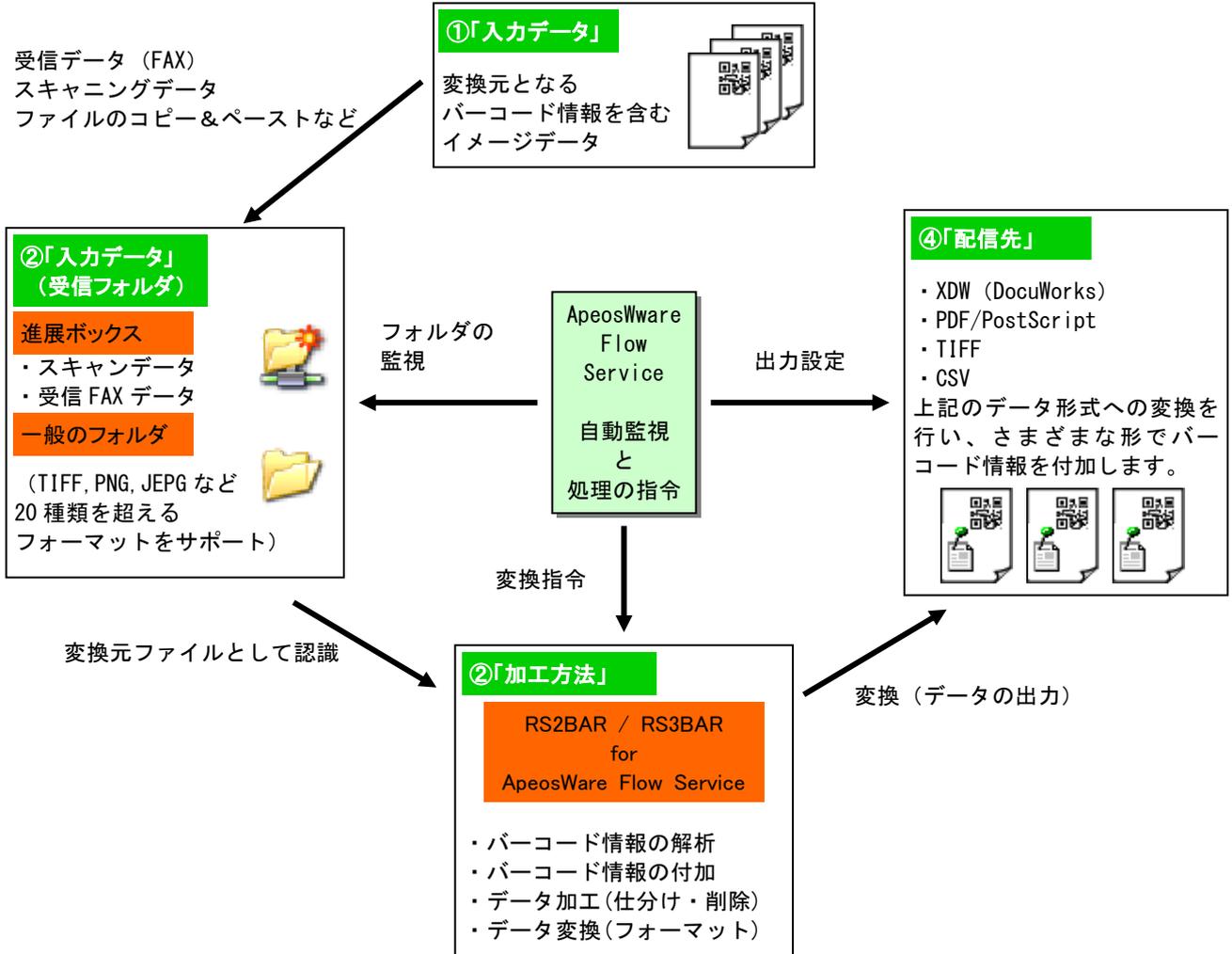
名称	内容
QR	QR コード。型番は任意。(2次元)
CODE39/128	Code39/128。桁数は任意。
GS1-128 (EAN128)	Code128 のうち、GS1-28 規格に適合するもの。
JAN8/13	JAN 及び、EAN コードのうち、8/13 桁のもの。
ITF	ITF。桁数は任意。
NW-7	NW-7。桁数は任意。
CUSTOMER	郵便カスタマバーコード。
PDF417	PDF417 バーコード。(2次元)
GS1 DataBar (RSS)	GS1 DataBar バーコード。 (7種類のタイプをサポート)
GS1 合成シンボル (EAN, UCC 合成シンボル)	GS1 合成シンボル。合成コンポーネントタイプ、 リニアコンポーネントタイプは任意。(2次元)
BLANK	空白ページの認識が可能。(空白をバーコードに置換)

※2次元コード(QR, PDF417, GS1 合成シンボル)は、RS3BAR for ApeosWare Flow Service のみ対応しています。RS2BAR for ApeosWare Flow Service では、2次元コード(QR, PDF417)を利用できません。

2. 処理概略図

[ApeosWare Flow Service との連携について]

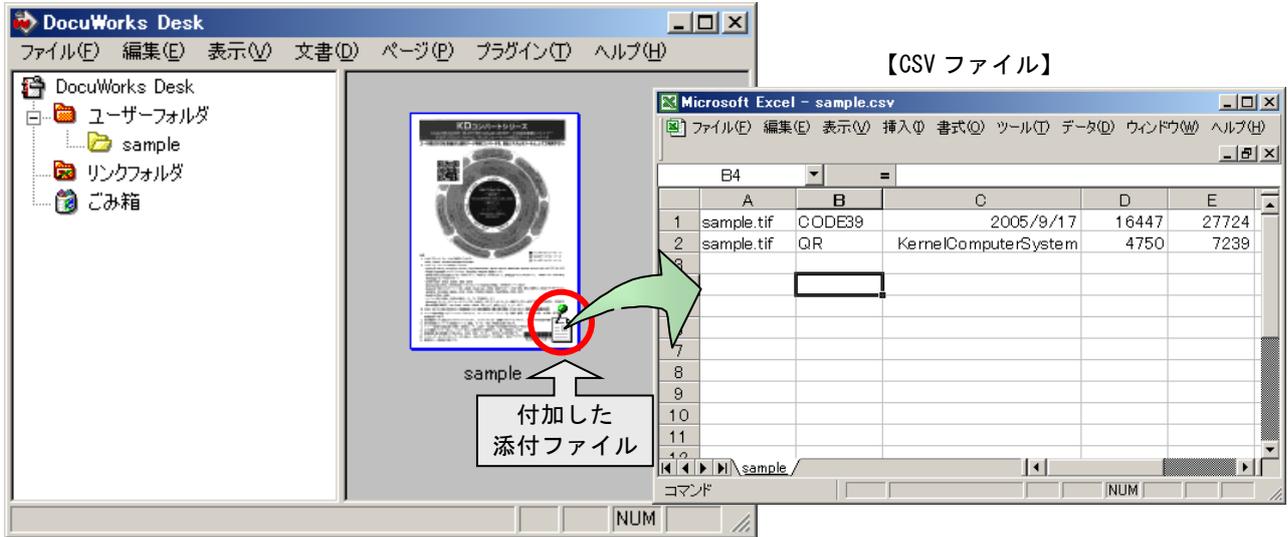
RS3BAR (RS2BAR) for ApeosWare Flow Service は ApeosWare Flow Service のプラグインとして動作し、基本構成の「加工方法」の機能に該当します。「取り込み元」で取り込んだデータに対し、バーコード情報の認識や情報の付加に関する様々な処理を行い付加価値を与え「配信先」に出力します。



3. 情報付加機能について

[XDW, PDF の添付ファイルとして情報を付加する]

読み取ったバーコード情報を出力したテキスト (GSV) ファイルを出力ファイルに添付ファイルとして付加します。(XDW, PDF 出力時のみ有効)



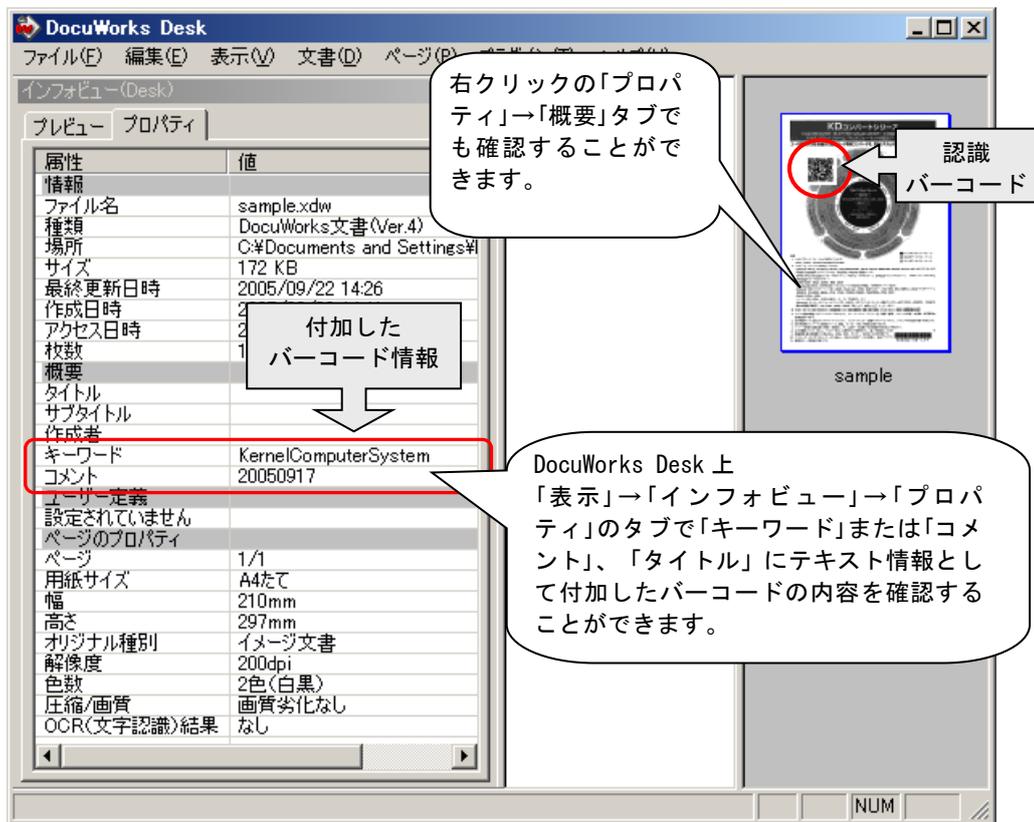
[XDW のアノテーションとして情報を付加する]

バーコードのイメージ下に読み取ったバーコードの情報をアノテーションとして付加します。(XDW 出力時のみ有効)



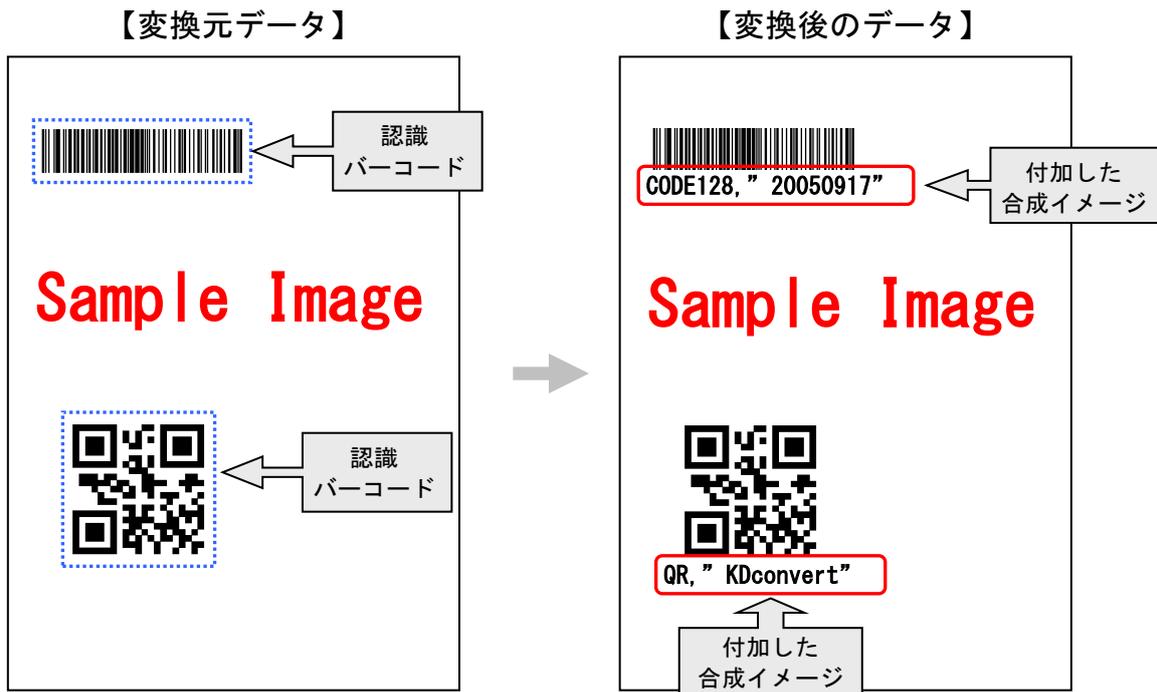
[XDW の概要に情報を付加する]

読み取ったバーコード情報を XDW の概要にある「キーワード」、「コメント」、「タイトル」いずれかに付加します。(XDW 出力時のみ有効)



[イメージ合成で情報を付加する]

バーコードのイメージ下に読み取ったバーコード情報をイメージ合成して追加します。(XDW, PDF/PostScript, TIFF 出力時有効)



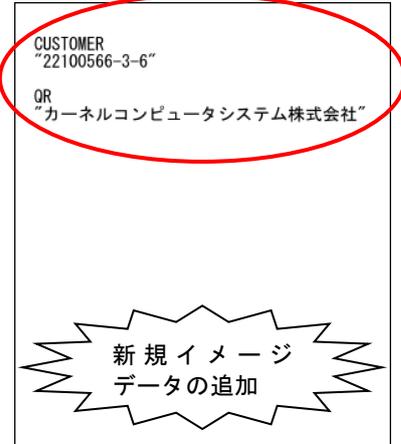
[情報イメージページを追加する]

出力データの先頭(前)又は、最後(後ろ)に読み取ったバーコード情報をイメージ化して生成したページを追加します。(XDW, PDF/PostScript, TIFF 出力時有効)

【変換元データ】



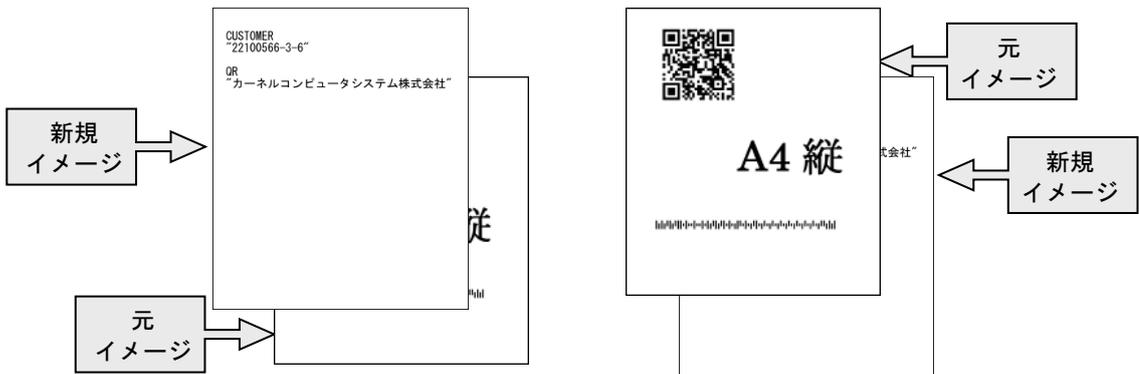
【生成データ】



変換元のデータからバーコードの
情報を読み取り内容をテキストイ
メージ化したデータを新規に作成
します。

・前(先頭)に追加

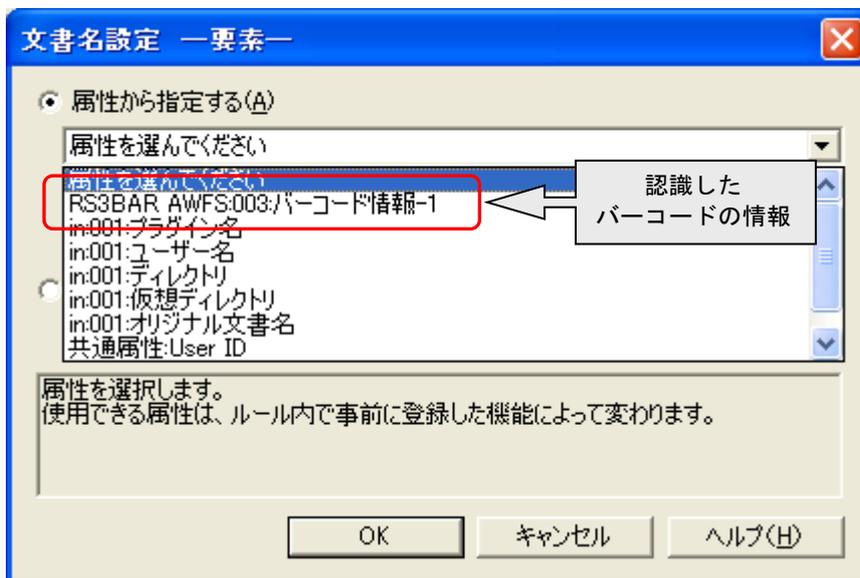
・後(最後尾)に追加



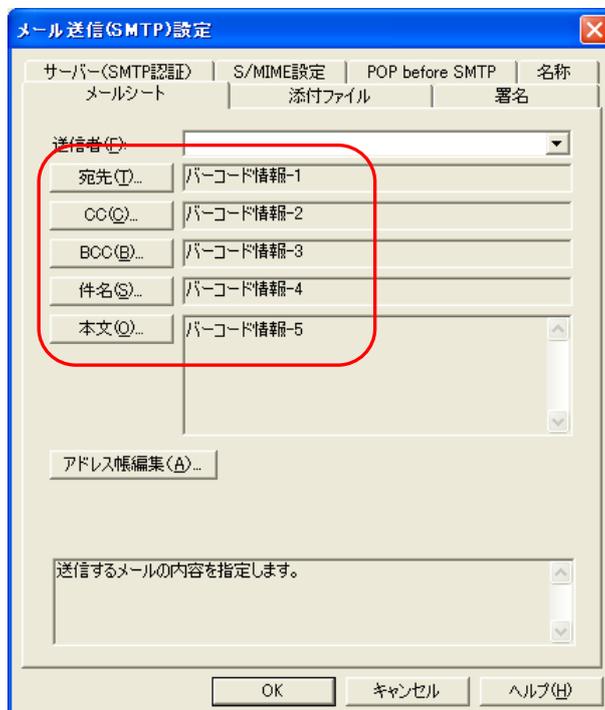
[属性項目への情報追加]

バーコードから取得した情報を ApeosWare Flow Service の属性項目に登録します。登録した情報を後続のプラグインで利用することができます。

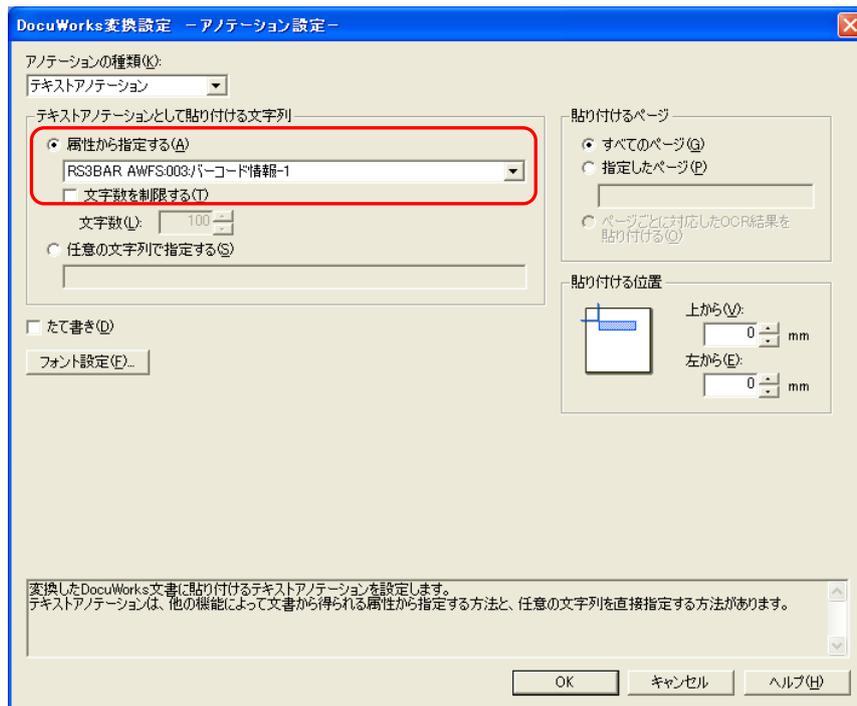
- ①「加工方法」-「文書名」、「配信先」における「文書名の追加」において読み取った情報を属性として利用することによりバーコードの内容を **出力ファイル名** にすることができます。



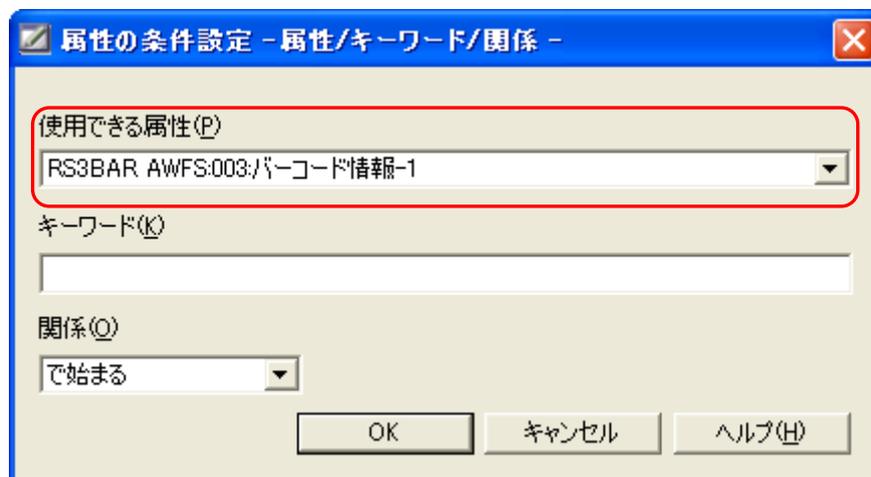
- ②「配信先」-「メール送信」において読み取った情報を属性として利用することにより、バーコードの内容を「宛先(メールアドレス)」、「件名」、「本文」などに使用することができます。
変換元のデータに「宛先(メールアドレス)」となるバーコードを貼り付ければその宛先に自動でメールを送信することができます。



- ③「加工方法」-「フォーマット変換」の XDW へのデータ変換時におけるアノテーションの貼り付けにおいて読み取った情報を属性として利用することにより任意の位置にアノテーション(テキスト・付箋)として出力することができます。



- ④「配信先」の機能における「配信条件の設定」において、読み取った情報を属性として利用することによりバーコードの情報に対してキーワードで検索を行い一致した(一致しない)条件にのみ配信(出力)することができます。バーコードの内容から配信(出力)を行いたい先を限定することができます。

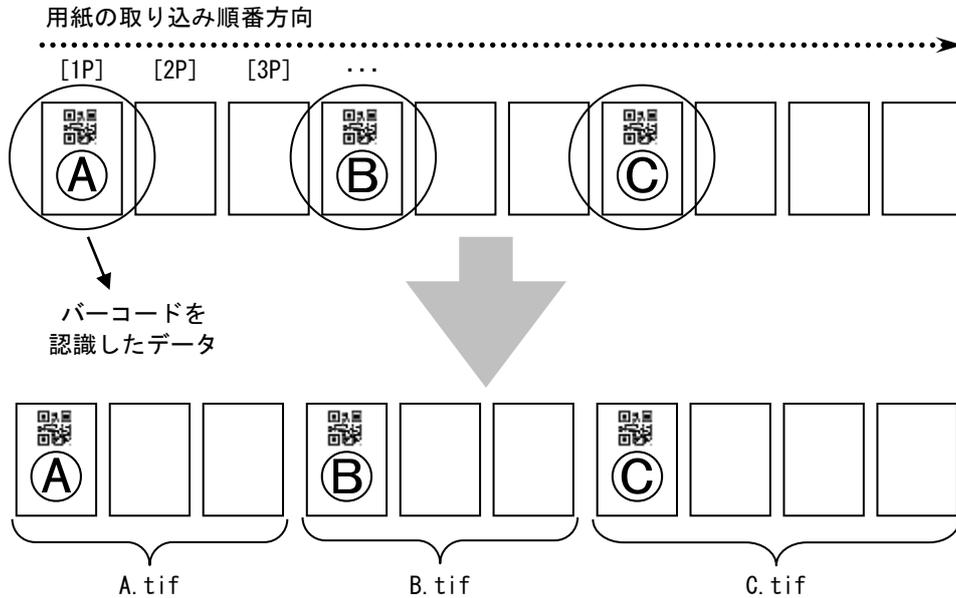


4. 編集機能について

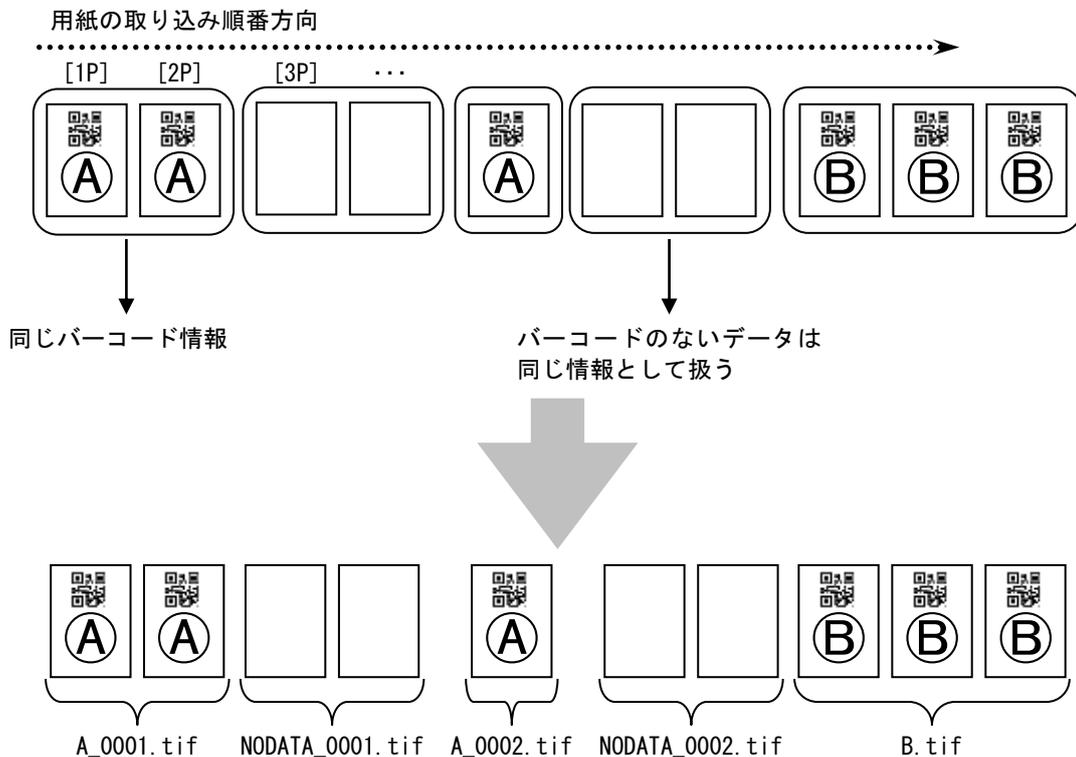
[分割機能に関するサンプル]

バーコード情報(白紙の指定が可能)を含むマルチページデータに対してバーコード情報を検出したページごとに区分けして出力を行います。バーコードや白紙ページ毎に仕分けして出力する場合に利用します。

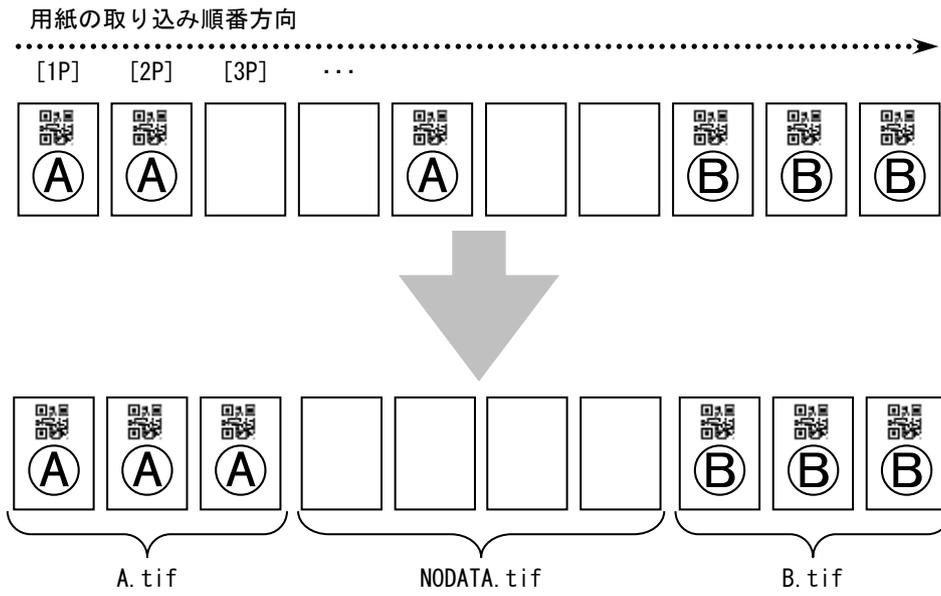
①バーコード情報を検出したページごとに区分けして出力を行います。(バーコードごと)



②先頭から順番に情報を比較してバーコードの内容(同じ情報)単位に仕分けを行う(バーコードの内容ごと)

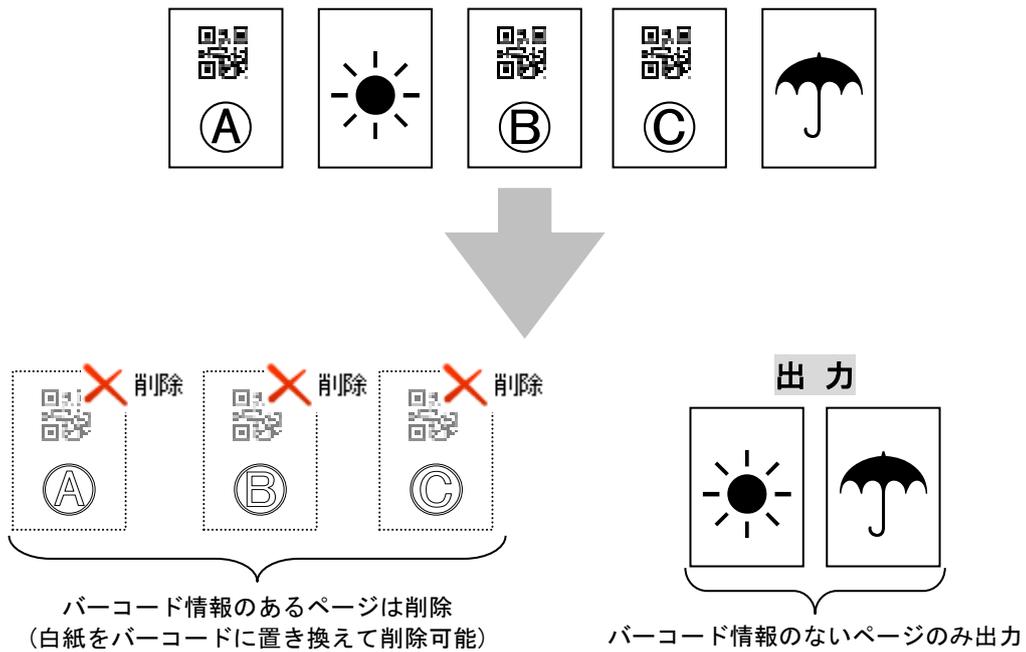


- ③全てのページに対してバーコードの内容(同じ情報)単位に仕分けを行う
(バーコードの内容ごと(順不同))



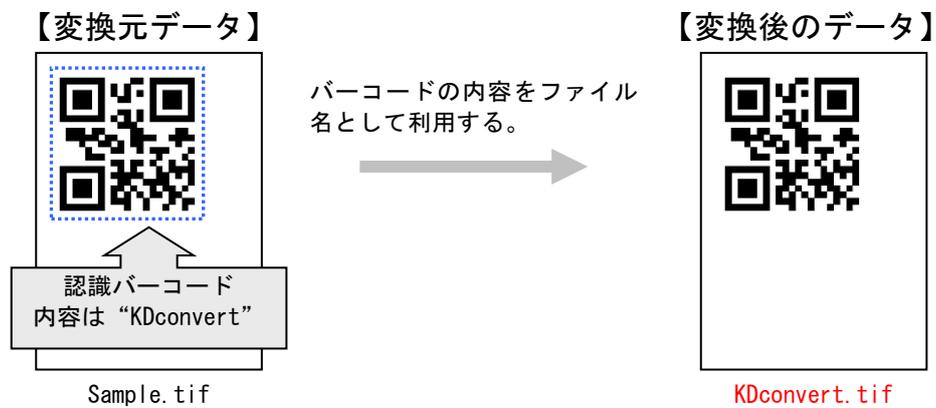
[削除機能に関するサンプル]

バーコード(白紙)情報を含むデータに対してバーコード(白紙)情報を検出したページを削除します。バーコードがあるページや白紙ページを削除する場合に利用します。



[ファイル名生成機能]

読み取ったバーコードの情報をファイル名として使用します。



[認識したバーコード情報の加工機能]

認識したバーコード情報を任意の条件で、連結・削除・分割することが可能です。また、分割時には任意の位置で分割や任意の範囲からの抽出、特定の文字列を分割文字として扱えます。

①認識したバーコード情報を指定文字で削除する

認識したバーコード情報から、指定された削除文字と一致する箇所を削除します。

(例)

認識情報 : "123ABC456DEF"

削除文字 : "ABC"

処理結果 : "123456DEF"

②認識したバーコード情報を指定文字で連結する

認識したバーコード情報を指定された連結文字で連結します。

(例)

認識情報 : "123", "ABC", "456", "DEF"

連結文字 : "-"

処理結果 : "123-ABC-456-DEF"

③認識したバーコード情報を指定された条件で分割する

任意の位置、任意の範囲として指定する場合の分割文字の単位は、全半角問わず n 文字目です

◇指定された文字列を分割文字として扱い、認識したバーコード情報と一致する箇所を分割します。
分割文字として扱われた情報は削除されます。

(例)

認識情報 : "123ABC456DEF"

分割文字 : "ABC"

処理結果 : "123", "456DEF"

◇認識したバーコード情報を任意の位置で分割する

(例)

認識情報 : "123ABC456DEF"

分割位置 : "3, 6, 9"

処理結果 : "123", "ABC", "456", "DEF"

<指定可能なパターン>(n, m には任意の数字が入ります。)

n : n 文字目で区切ります。

n- : n 文字目以降を取得します。

n-m : n 文字目から m 文字目の範囲を取得します。

◇認識したバーコード情報から任意の範囲を抜き出します。

(例)

認識情報 : "123ABC456DEF"

抽出範囲 : "4-9"

処理結果 : "ABC456"

<指定可能なパターン>(n, m には任意の数字が入ります。)

n : n 文字目を取得します。

-n : n 文字目までを取得します。

n- : n 文字目以降を取得します。

n-m : n 文字目から m 文字目の範囲を取得します。

5. 商品導入の背景、狙い

[特徴 1]

ApeosWare Flow Service の機能と組み合わせることによりバーコードの付いたスキャンングデータや FAX データを様々な形(ファイル名の変更、フォルダ配信、不要ページの削除、自動成立)で編集することが可能です。

[特徴 2]

バーコードから読み取った情報をテキスト情報として付加できるため、検索など、テキスト情報を利用するデータ運用が可能になります。

[特徴 3]

バーコードから読み取った情報を出力ファイル名に利用する、関連付けされた配信先に出力するといった機能を使うことにより様々な自動化に利用することができます。

[特徴 4]

バーコードの読み取りは、OCR 機能と似ていますが OCR 機能と比較して誤認識率が非常に低いことが特徴で、可読できるバーコードのイメージを貼り付けることができればどのようなイメージデータからでも精度の高い情報取得が行えます。

QR コードについては、設定により一部欠損がある場合でも認識が可能です。

[特徴 5]

ApeosWare Flow Service の属性項目にバーコードの内容を付加(登録)することにより、バーコード内容を ApeosWare Flow Service のメール送信機能の宛先・本文内容に使用する、DocuWorks 変換機能のアノテーションとして利用する、配信先機能の配信条件に使用することができます。

6. その他

[動作環境について]

- > 「RS3BAR (RS2BAR) for ApeosWare Flow Service」を利用するにあたり、以下の富士ゼロックス社製品が必要になります。
 - ・ ApeosWare Flow Service 1.0 ~ (必須)
 - 「RS3BAR (RS2BAR) for ApeosWare Flow Service」は ApeosWare Flow Service のプラグイン製品となっており ApeosWare Flow Service の仕様に準拠します。
 - ・ DocuWorks 6 / 7 / 8
 - XDW ファイルの入出力を行う場合に必要になります。

- > 対応 OS (32 ビット環境のみ)
 - ・ Windows Server 2008 (Standard Edition/Standard without Hyper-V Edition
Enterprise Edition/Enterprise without Hyper-V Edition)
 - ・ Windows7 (Enterprise Edition/Professional Edition)

[価格]

- ◇ RS3BAR for ApeosWare Flow Service
 - ・ 販売価格 : ¥400,000 (税抜き) / 1 ライセンス
 - 1 次元バーコード + 2 次元バーコードの認識に対応

- ◇ RS2BAR for ApeosWare Flow Service
 - ・ 販売価格 : ¥300,000 (税抜き) / 1 ライセンス
 - 1 次元バーコードのみ認識に対応